

CIGS 東アジア長期情勢ワークショップ

December 19, 13:00-16:00

The CANON Institute for Global Studies, Tokyo, Japan

Program

Opening : 13:00-13:15

- 宮家邦彦 (CIGS)

「東アジア長期情勢プロジェクトと本ワークショップについて」

Session 1: 東アジアの長期情勢を考える 13:15-14:00 (15分/1人)

報告者 :

- 平川幸子 氏 (早稲田大学・准教授)

「中国にゴルバチョフが現れる日ー台湾とASEANに光を」

- 松浦正伸 氏 (東京福祉大学・特任講師)

「2030-40年韓国国家戦略の展望 :

人口動態及び戦略論より見たる韓国社会・外交・安全保障」

- 福永玄弥 氏 (日本学術振興会・特別研究員／東京大学大学院・後期博士課程)

「東アジアの性政治 : ジェンダー／セクシュアリティ政治の未来」

Session2: 中国の長期情勢を考える 14:00-14:45 (15分/1人目安)

報告者:

- 伊藤亜聖 氏 (東京大学社会科学研究所・講師)
「1992年のアジア、2040年のアジア」
- 内藤寛子 氏 (慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科・後期博士課程)
「中国における「法治」とは何か？」
- 熊倉潤 氏 (日本学術振興会・海外特別研究員／台湾国立政治大学東亜研究所・客員研究員)
「中国少数民族に独立の日は来るのか? : ソ連、ユーゴスラビアとの比較から」

—休憩—(14:45-15:00)

Discussion: 15:00-16:00

Closing : 16:00-

キャノングローバル戦略研究所「東アジアの長期情勢に関する分析・評価」プロジェクト

プロジェクトの目的

2050年までの東アジアにおける大国間の関係の長期的趨勢について、とくに大国間の攻防といわれるような米中間の対立・競争についての戦略的趨勢を中心に、長期的情勢の変化を、より総合的に分析・評価する。こうした研究により、東アジアの長期情勢の特徴を導出するとともに、東アジアの国際関係の安定化の方途を探る。

プロジェクトの一環で実施する本ワークショップは、2030-40年を射程にした東アジア地域の趨勢をテーマに、研究報告・討議を行うものです。とくに、プロジェクトの趣旨を鑑み、若い新たな発想から東アジアの将来の Alternative Futures を炙り出すことを射程に、チャレンジングな最先端のテーマで取り組む若い専門家の方に報告を頂きます。報告を受けて、中国・朝鮮半島などを専門にしているシニア（プロジェクト関係者）および CIGS 関係者との討議を加え、議論を深めて参ります。シンポジウムを通じて、東アジアの長期情勢の特徴を導出するとともに、東アジアの国際関係の安定化の方途の手掛かりを得ることを企図しております。

報告者紹介 ※50 音字順

伊藤 亜聖 氏（東京大学社会科学研究所・講師）

慶應義塾大学経済学研究科修了（経済学博士）。人間文化研究機構（NIHU）地域研究員・社会科学研究所助教を経て現職。専門は中国経済論。

〔主な著書・論文等〕

『現代中国の産業集積—「世界の工場」とボトムアップ型経済発展』（名古屋大学出版会、2015年12月）、『東大塾社会人のための現代中国講義』（高原明生・丸川知雄共編、東京大学出版会、2014年11月）、China's Outward Foreign Investment Data (Tomoo Marukawa, Asei Ito, and Yongqi Zhang ed., 東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点研究シリーズ No. 15, 2014年3月)等。

熊倉 潤 氏（日本学術振興会海外特別研究員／台湾国立政治大学東亜研究所客員研究員）

東京大学大学院法学政治学研究科修了（博士（法学））。イエール大学フォックス・インターナショナルフェロー、日露青年交流センター若手研究者等フェローシップ・フェロー、中国政府奨学金高級進修生（北京大学）等を経て、現在、日本学術振興会海外特別研究員、台湾国立政治大学東亜研究所客員研究員。専門は、ユーラシア地域の民族問題、中国政治、中ソ比較政治。

〔主な著書・論文等〕

「民族自決と民族団結—少数民族地域における政治エリート集団の歴史的形成過程に関する中ソ比較研究」（東京大学大学院法学政治学研究科（博士論文）、2016年）、「三区革命領導者於革命後の政治演變—以「建国」以来的賽福鼎為例」（『国際関係史工作坊（第3期）論文集』2015年）、「民族自決と連邦制—ソ連中央アジア地域の国家建設（1923-1924年）」（『ロシア史研究』94号、2014年）等。

内藤 寛子 氏（慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程）

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科単位取得退学。ハーバード大学燕京研究所訪問研究員等を経て、現在、一般財団法人世界政経調査会国際情勢研究所非常勤研究員、慶應義塾大学大学院 SFC 研究所上席所員。専門は、現代中国政治、比較政治。

〔主な著書・論文等〕

「1980年代以降の党・法院関係の制度化と中国共産党の支配の正当性」『中国研究論叢』（2013年9月）、「労働争議処理手続きの制度化にみる中国共産党の適応能力」『SFCジャーナル』（2016年2月・掲載予定）「政治体制改革の継承と発展—省レベルにおける政法委員会の改組状況に着目して」『国際情勢』（2016年度・掲載予定）等。

平川 幸子 氏（早稲田大学留学センター・准教授）

早稲田大学留学センター准教授。学術博士。米国タフツ大学フレッチャースクール法律外交大学院にて国際関係学修士号（MALD）、早稲田大学アジア太平洋研究科にて博士取得。早稲田大学アジア太平洋研究科助教、同大学国際教養学部助教を経て、2016年より現職。専門は東アジア国際関係論、アジア地域統合論。

〔主な著書・論文等〕

『二つの中国と日本方式』（勁草書房、2012年）、『歴史の中のアジア地域統合』（勁草書房、2012年、共編著）、「台湾のTPP/RCEP政策と実現可能性」（『問題と研究』第45巻1号、2016年）、「アジアにおける安全保障観の対立と協調—守るべき「地域」「国家」「党」「人間」の交錯」山田満編著『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）、「Japan: Living in and with Asia,」 Lee Lai To and Zarina Othman eds, Regional Community Building in East Asia: Countries in Focus (Routledge, 2016)等。

福永 玄弥 氏（日本学術振興会特別研究員／東京大学大学院総合文化研究科後期博士課程）

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程在籍、日本学術振興会特別研究員（DC1）。北京クィア映画祭や中国クィア巡回映画祭、関西クィア映画祭でキュレーターを務め、現在は東アジア×クィア×映像プロジェクト主催。専門は、クィア・スタディーズ、東アジア研究。

〔主な論文等〕

2016年にシノドスに発表した「『蔡英文は同性婚を支持します』：LGBT政治からみる台湾総統選挙」（<http://synodos.jp/international/15953>）のほか、近刊に「『LGBTフレンドリーな台湾』の誕生」、「台湾におけるフェミニズム的性解放運動の展開」（いずれも瀬地山角編『東アジアのジェンダーとセクシュアリティ』勁草書房収録）など。中国映画の字幕翻訳作品も多数あり。

松浦 正伸 氏（東京福祉大学国際交流センター・基礎教育特任講師）

ソウル大学大学院社会科学大学政治外交学科国際関係論専攻修了（Ph.D. in International Relations）。目白大学外国語学部研究助手を経て、現在、東京福祉大学国際交流センター基礎教育特任講師、平和安全保障研究所「日米パートナーシップ」第4期（通算第18期）フェロー。専門は、東アジア国際関係、韓国政治外交、朝鮮地域研究。

〔主な著書・論文等〕

『インテリジェンスなき国家は減ぶ：世界の情報コミュニティ』（亜紀書房、2011年、共著）、『冷戦期北朝鮮帰国事業の規模変容過程に関する分析』（韓国語）（ソウル大学大学院（博士論文）、2015年）、「『疑似環境』と政治：北朝鮮帰国事業における総連と北朝鮮ロビーの役割を中心として」（『国際政治』第187号、2017年）